

ココシリ

「ここが知りたい」
国際協力に関係する
いろんなトピックを
分かりやすく解説します！

グローバルフェスタ JAPAN 2012

イベント

22回目を迎える 国内最大級の国際協力の イベントに行こう！



昨年のグローバルフェスタには、約11万人が来場

グローバルフェスタJAPAN 2012

開催日時：10月6日(土)、7日(日)10時～17時
場所：日比谷公園(野外小音楽堂、千代田区立図書館文化館などを含む)
主催：グローバルフェスタJAPAN 2012 実行委員会
共催：外務省、JICA、NPO法人国際協力NGOセンター

入場無料
ホームページ：www.gfjapan.com/

今年のみどころ

藤原紀香さんとルー大柴さんの
途上国視察レポート

「アフリカ・シンポジウム」

写真展「アフリカで見つけた日本」

NGO募金支援キャンペーン

世界銀行関連ステージ

桑山紀彦さんの「地球のステージ」

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人
メンバーによるトークイベント

10月6日、「グローバルフェスタ JAPAN 2012」(外務省、JICA、NPO法人国際協力NGOセンター共催)が日比谷公園(東京都千代田区)で開催される。毎年恒例の日本最大級の国際協力の祭典に、国内のNGOや国際機関、企業など約200の団体が参加。それぞれの取り組みを紹介するとともに、国際協力の多彩なイベントが企画されている。

10月6日の「国際協力の日」に合わせて開催されるこのイベントは、今年で22回目。今回のテーマは、「Think Global, Think Green: 世界を変えよう。未来をつくる。」。同会場でも開催される「第29回全国都市緑化フェア TOKYO」(東京都主催)と併せて、住みやすい地球の在り方について考える。

メインステージの目玉の一つは、「地球VOICE」(毎週金曜夜9時54分からテレビ東京で放映されている国際協力紹介番組)のナビゲーターとして活躍する女優の藤原紀香さんとタレントのルー大柴さんによるトークショー。藤原さんは6月にベトナムを、ルー大柴さんは9月にエチオピアとジブチを訪問しており、これらの取材を通じて見た現地の様子をレポートする。

また、来年6月に横浜で開催される「第5回アフリカ開発会議(TICAD V)」と関連したアフリカをテーマにした企画も盛りだくさん。「アフリカ・シンポジウム」は、アフリカ支援に取り組む官民のさまざまなアクターによるディスカッションを予定しているほか、写真展「アフリカで見つけた日本」では、NGOや国際機関や団体などの現地での活動の様子から、成長するアフリカや元気なアフリカまで、さまざまなアフリカを知ることができ、日本とアフリカの幅広いかわりを発見することができる。

また、会場内では「NGO募金支援キャンペーン」も展開する予定。日本のNGOの活動への理解を促進し、さらに支援の輪を広げるために、来場者にチャリティースタンプラリーに参加してもらいながら、日本の寄付文化についてみんなで考える企画を準備している。

7月24日、外務省と文部科学省の共催で「大学とODA」を援助の担い手の拡大に向けた新たなフロンティア」が外務省で開催された。このシンポジウムは、ODAへの日本の大学の参画を促進することで、開発途上国の多様なニーズに応え、ODAの質的改善を図ることが目的。全国各地の大学に加え、大学と連携事業を実施している地方企業などから70大学約170人が参加した。

シンポジウム

大学とODA 大学の“潜在力”に期待 ODAへの参画拡大呼びかける

越川和彦局長は、ODAへの参画は大学の国際化や経営面の収益にもつながり、現場体験を通じた教育的効果を得られる点などを挙げた。

一方で現時点での課題として、①担当教員の評価につながりにくい、②事務作業を担うスタッフの欠如、③財務・会計処理の煩雑さの3点が指摘され、外務省、JICAが制度的な改善に今後取り組んでいくとともに、大学側にも「事業への参加を組織的に決定してほしい」と呼びかけた。

会場では、ODA事業への参画を積極的に推進している帯広畜産大学や広島大学、早稲田大学、豊橋技術科学大学の関係者が具体的な事例を報告。その経験ノウハウの共有を図るとともに、外務省や文科省、JICAの担当者からは大学側に対する期待や課題、提案などが寄せられた。



約170人が一堂に会したシンポジウム。大学がODAで果たし得る役割への期待が伺えた



エジプト第2の都市アレクサンドリアの南西ニュー・ボルグ・エル・アラブ市にある「エジプト日本科学技術大学」。早稲田大学、京都大学、九州大学など日本国内の12大学がコンソーシアムを立ち上げ、現地への教員の派遣などを通じて「オールジャパン」で支援を続けている

外

務省は「日本NGO連携無償資金協力」(平成24年度版)の申請の手引き(実施要項)を作成した。

NGO連携

「日本NGO連携無償資金協力」は、日本の国際協力NGOが開発途上国・地域で行う経済・社会開発事業に資金を提供するというもの。対象となる事業は、①開発協力事業、②NGOパートナーシップ事業、③リサイクル物資輸送事業、④緊急人道支援事業、⑤地雷関係事業、⑥マイクログレジット原資事業、⑦平和構築事業の7つの分野だ。

また、「国際協力における重点課題」に該当する事業の場合には、通常のNGO連携無償資金協力事業の要件を基本として、事業期間・供与限度額・支援対象経費の優遇措置を適用して申請することが可能になる。

「日本NGO連携無償資金協力」 国際協力における 重点課題の項目を拡充

平成24年度版の「申請の手引き」では、同制度の概要や事業の申請手続きの流れをあらためて解説するとともに、各種申請書類などを併せて掲載。「国際協力における重点課題」として、「平和構築事業(特にフィリピン、ミャンマー、アフガニスタン、ケニア、南スーダン)」と「地雷関係事業」の2つを、新たに追加した点がポイントになっている。

「日本NGO連携無償資金協力」は、ODAの担い手、拡大に向けて、NGOとの連携を強化すべく平成14年度に開始された制度で、資金供与額も年々増加している。昨年度には27の国・地域で45団体が実施する81件の事業に対して、前年度比16.5%増の計29億11万7723円が供与されている。



「日本NGO連携無償資金協力」を通じて、ミャンマーで災害リスク軽減に取り組むNPO法人SEEDS Asia。トラックを活用した移動式の防災教育トレーニングを実施。安全な村づくりについて、模型を活用しながら説明するスタッフ

「平成24年度 日本NGO連携無償資金協力申請の手引き(実施要項)」は外務省のホームページよりダウンロード可能
www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/shien/musho_yoko24/